

HASEKO Corporation



長谷エコーポレーション 環境・社会報告書 2013

Environmental & Social Report



株式会社 長谷エコーポレーション



長谷エグループ企業理念

都市と人間の 最適な生活環境を創造し、 社会に貢献する。



環境・社会報告書作成基本事項

対象組織： 株式会社長谷工コーポレーション
 対象期間： 2012年度(2012年4月1日～2013年3月31日)
 但し、一部対象期間外の情報も含めています。
 対象分野： 対象組織の環境・社会活動について掲載しました。
 但し、一部グループ会社の活動も掲載しています。
 作成指針： 環境省の環境報告ガイドライン(2007年版)を参考にして
 作成しています。
 ガイドラインの内容全てを網羅できてはおりませんが、当社の
 現状での環境・社会への取り組みを中心に掲載しています。
 作成部署： 広報IR部、品質・環境対策室

目次 Contents

長谷工グループ企業理念	2
目次・作成基本事項・会社概要	3
トップメッセージ	4

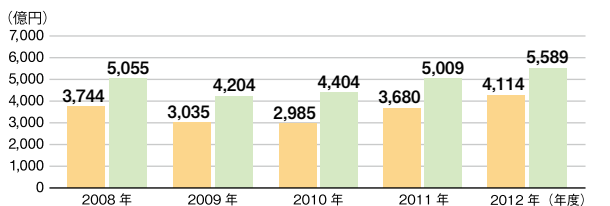
特集

「長谷工がかける 新たな時代への架け橋」	6
-------------------------	---

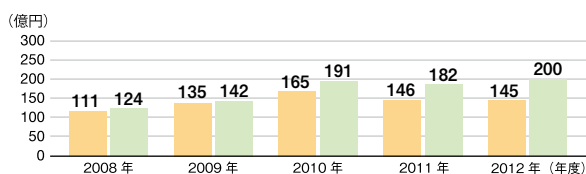
会社概要

社名： 株式会社 長谷工コーポレーション
 創業： 1937(昭和12)年2月11日
 設立： 1946(昭和21)年8月22日
 資本金： 575億円(平成25年3月31日現在)
 売上高： 4,114億3,600万円(2012年度)
 従業員数： 2,005人(平成25年3月31日現在)
 主要営業種目： 建設事業、不動産事業、エンジニアリング事業

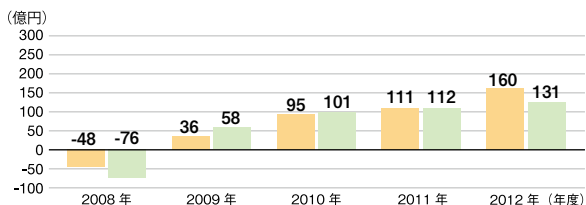
売上高の推移



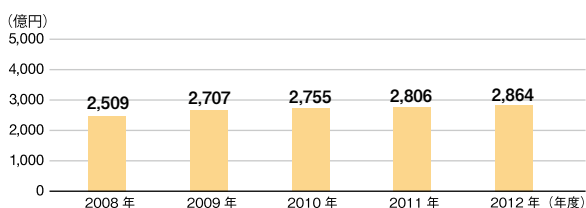
経常利益の推移



当期純利益の推移



受注高の推移



環境活動報告

1. 環境方針	12
2. 環境マネジメントシステム	13
・環境マネジメントシステム管理体制	
・環境マネジメントシステムの状況	
・環境法規制の順守状況	
・2012年度環境目的・目標と結果及び2013年度計画	
3. 施工における環境活動の流れ	15
4. 地球温暖化防止の取り組み	16
・オフィスでのCO ₂ 削減・省エネ活動	
・施工段階でのCO ₂ 削減	
5. 資源循環及び廃棄物削減の取り組み	19
・建設廃棄物の適正処理及びリサイクル状況	
・廃棄物削減の取り組み	
・グリーン調達への取り組み	
・施工部門における教育の取り組み	
6. 環境配慮の取り組み	22
・CO ₂ 排出量算出プログラム	
・環境に配慮した住宅設備機器	
・環境配慮設計の事例	
・生物多様性に配慮した活動	
・豊かな住環境創りの事例	
7. 研究・技術開発の取り組み	26
・環境負荷低減・省エネルギー関連技術	
・長寿命化関連技術	
・環境向上関連技術	
8. マテリアルフロー	29
9. 環境会計	30

環境社会推進体制

10. コーポレート・ガバナンス	32
11. コンプライアンス及びリスク管理体制／個人情報保護	33

社会活動報告

12. 社会活動報告	34
・コミュニケーション	
・社会貢献活動	
・外部表彰	
・環境・社会貢献関連記事	

アイコンについて

本報告書では下記のアイコンにより、記載項目の分野や内容の目安を示しています。



トップメッセージ

地球にやさしく、 人々の“命”と“生活”を守る マンションのあり方を追求する



株式会社 長谷工コーポレーション
代表取締役社長

大栗 育夫


住まいをつくり、 維持していく役割を果たす

長谷工グループは「都市と人間の最適な生活環境を創造し、社会に貢献する」を企業理念に、マンションの企画、設計、施工から販売、管理、修繕など、住まいに関わる事業を展開しております。当社は、2012年度から4ヶ年にわたる中期経営計画「PLAN for NEXT」を策定し、従来から取り組んでいるマンション建設を中心とするフロー市場と、着実に積みあがっていくストック市場の両方に軸足を置く経営を目指しています。

2013年6月末現在、当社で施工した分譲マンションの累計戸数は53万戸に積みあがっています。これは日本の分譲マンションストックの約1割に相当する戸数です。「住まい」という社会資本をつくり、そのストックを維持していくという社会的役割を果たすために、当社はこれからも持続的に発展する企業を目指してまいります。

地球環境にやさしい住まいのために

当社は、地球環境にやさしい住まいづくりのために、設計・施工におけるさまざまな技術開発を進めてまいりました。住宅分野の省エネ化は地球温暖化対策に欠くことのできない重



要な課題のひとつですが、長谷工グループでは既存住宅の省エネ対策として、「共同住宅の総合省CO₂改修」を策定し、このたび国土交通省の「平成24年度（第2回）住宅・建築物省CO₂先導事業」に採択されました。これは外断熱改修による建物の長寿命化を図るとともに、スマート化改修などさまざまな改修技術により環境・省エネ性能の向上に寄与するものです。

また、国土交通省が推進する「低炭素建築物認定制度」で、当社が計画している2件のマンションが認定を取得しました。これは、「都市の低炭素化の促進に関する法律」（通称「エコまち法」）に基づいて、低炭素化に関する先進的な基準に適合する建築物を認定する制度です。

このほか、一昨年から開始したマンション計画における「CO₂排出量算定プログラム」の運用をはじめとして、環境負荷の低減、資源・エネルギーの効率化などの環境に配慮した技術についても引き続き開発に努め、環境に配慮した住まいづくりを追求してまいります。

また、2012年に策定した「長谷工グループ生物多様性行動指針」に従って、緑地保全活動への参加も進めています。地球環境を守る社会貢献活動に社員が参加することによって、社員の環境に対する意識を深め、住まいという形に還元していきたいと考えています。

安全・安心で快適な住まいのために

東日本大震災から2年半が経過しました。住まいは「人の命を守る器」とであると同時に、「生活を守る場」でなければならないと考えます。建物がしっかりとした構造を持ち、災害に強いことはもちろんのこと、災害が起こったあとの生活基盤の確保も重要であり、マンションのづくり手として技術やサービスの開発に努めてまいりました。

当社が今から10年前の2003年より「防災3点セット」の設置を事業主様にご提案してきたのも、そうした考え方に基づいたものです。今後も、お客様の安全・安心で快適な生活のために当社ができることは何かを考え、より一層の信頼を得る企業となるために微力を尽くしてまいります。

本報告書は、2012年度における当社の企業活動の中で実施した地球環境や社会への貢献の取り組みをまとめました。今後とも、皆様のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2013年9月

特集

長谷工がかける 新たな時代への架け橋

長谷工コーポレーションは、“都市と人間の最適な生活環境を創造し、社会に貢献する。”

という理念のもと、さまざまな取り組みを行っています。

なかでも、マンションの施工現場での体験・見学を通してものづくりの楽しさを伝える「母と子の現場見学会」や地球環境を守る「清瀬松山緑地保全活動」、「共生の森づくり」は、長谷工が環境と社会への貢献を通じてかける、未来への架け橋です。それぞれの活動のレポートと関係者の声を通してご紹介します。

パート1

ものづくりの心を、明日へつなぐ ～母と子の現場見学会～

長谷工グループが、マンション建設を通して育ててきた「ものづくりの心」。長谷工グループ労働組合は、「母と子の現場見学会」を毎年開催し、現場見学を通して、子供たちにも「ものづくりの心」を学んでもらっています。





ゆっくり、ゆっくり。こぼさないように……

全問正解者には特別プレゼント!“ありがとう!”

カラフルなタイルにしようね

ここをつなぐんだね。ヨイショ!

①②③④⑤早強モルタルを使用した文鎮づくり ⑥本体板にモザイクタイルと貝殻を飾って鍋敷きやコースターをつくる ⑦プレーカーにドライバーで結線し、仮設照明の電気を点ける ⑧⑨⑩⑪大盛り上がりとなったクイズ大会

ものづくりの楽しさを伝える

長谷工グループ労働組合の「魅力ある作業所研究会（魅力研）」は、組合員とその家族が参加する「母と子の現場見学会」を、年に一度東京地区と関西地区で開催しています。この見学会は、マンションの工事現場を見る機会がない組合員の家族に、「家族がどんなところで働いているのか」を伝え、同時に「ものづくり」の楽しさを感じてもらうことを目的に始めました。プログラムは、マンション建設現場だからこそ見学・体験できるイベントで構成され、毎年、内容に工夫とアレンジを加えて参加者に楽しんでもらっています。

驚きが、やがて楽しさへ

2013年5月、東京と関西の現場で、家族を招いての見学会が開かれました。朝から集まった子どもたちは、普段は外から見るだけで中には入れない建設現場に入り、興味津々。どんな面白いことが起こるのだろうという期待を胸に、見学者が身に着けるバンダナと軍手を受付で受け取りました。建設現場では毎日必ず行われる朝礼とラジオ体操を、見学会でも実施。現場所長から家族の皆さんへの挨拶の後、皆で音楽に合わせて身体をほぐしました。体操の後は班ごとに分かれてイベントを体験。建材を使った文鎮や鍋敷き、コースターづくりなどの「工作体験」や、建設重機や工事用ロングスパンエレベーターの「試乗体験」、針金を用いた鉄筋の固定や外装吹付、仮設照明の電気を結線する「施工体験」などを行いました。モルタルを扱うことも、エレベーターやクレーン車に乗る

ことも、参加した子どもたちには未体験のことです。会場では終始そこかしこで「ワーッ!」「オーッ!」といった驚きの声と笑い声が絶えませんでした。最初は恐る恐る重機の座席に腰かけていた子どもたちも、やがて目を輝かせ、工作体験や施工体験などを行いました。

「魅力ある作業所研究会」より

見学会には、「学び」の要素が欠かせません

東京地区で行った生コンクリート工場の見学は今回が初めての試みでした。マンションがコンクリートでつくられることを知ってもらうため、こうした「学び」の要素が見学会には欠かせません。一方、楽しんでもらわなくては意味がないため、恒例のクイズ大会や工作体験も、驚きながら喜んでもらえるよういつも工夫しています。今後は、小学校高学年の子どもたちも参加できるよう、夏休み期間中の開催も視野に入れていきます。職人の姿を見てもらうために、施工中の現場見学も面白いのではと思っています。組合員一同、これからも魅力ある見学会を目指します。

長谷工コーポレーション
建設部門 第一施工統括部 所長
石井 寿典





工
事
用
エ
レ
ベ
ー
タ
ー
は
初
め
て
!
高
ー
い
!!

今、まさに建設中の
マンションを見学。
“へー。こんな風にな
ってるんだ”

⑬⑭ロングスパンエレベーターに試乗し、建設現場の様子を見学 ⑮⑯重機の試乗体験 ⑰⑱鉄筋を針金で固定する作業を体験 ⑲フローリングでボウリングレーンを作り、ゴルフの形式でピンを倒す。倒れたピンの本数のお菓子をプレゼント!
⑳現場で毎日行うラジオ体操を皆で行った ㉑「お絵かきコーナー」では、ベニヤ板に思い思いにお絵描きをした ㉒吹付の体験。ガンで吹付すると、「A」の文字が。全て合わせると「HASEKO」に ㉓生コンクリート工場の見学。コンクリートの強度試験を見学し、コンクリートに関するレクチャーも受けた

コンクリート
ってとても
強いんだね...

みんな
で
ラ
ジ
オ
体
操。
“
イ
チ
ッ
、
ニ
ッ
、
サ
ン
ッ
、
シ
ッ
!”

見学会参加者より

楽しい見学会にこれからも期待!

子どもに、日ごろ決して見られない建設現場を見せられて良かったです。また私たちも、コンクリートの製造工程や、文鎮づくりに使った早強モルタルの固まる早さなどは知らず、今年の見学会はとても貴重な体験になりました。

長谷工がものづくりの企業として、こうした見学会で家族に施工現場を体験してもらうことの意義は大きいと思います。これからも、楽しめるイベントを通して勉強できたら良いですね。



長谷工コーポレーション
住宅開発事業部
小林 良 (右)
建設人事総務部
小林 有子 (左)

ものづくり企業の使命を
これからも追求

東京地区では、現場に隣接する生コンクリート工場で、コンクリートの役割や製造工程の説明を受け、コンクリートの強度実験などを見学しました。最後は当日見学したことのおさらいも含めたクイズ大会が開かれ、記念品を贈られた参加者から歓声が上がりました。また、見学したお父さんの中には建設部門でない社員もいて、「生コンクリート工場は見たことがなく、仕事を違う角度から考えることができ、貴重な見学会になりました」との感想もありました。参加者の皆さんにとっては、ものづくりの驚きと楽しさを通して一生の思い出となったかもしれません。

長谷工はものづくりを中心とする企業です。ものづくりの探求に終わりはなく、その面白さを伝えていく使命にも終わりはありません。魅力研は、来年もまた家族の皆さんに楽しんでもらうよう、いっそう面白いイベントを企画していきます。

パート2

地球の財産を、未来へつなぐ ～生物多様性への取り組み～

地球上に限りある緑は、人類が未来へつないでいくべき大切な財産です。私たちは、「長谷工グループ 生物多様性方針」に基づいて行っている活動を通じて、地球環境の未来に貢献しています。

大阪湾堺第7-3区
(大阪府堺市)

清瀬松山緑地
(東京都清瀬市)

生物多様性に、 長谷工グループとして取り組む

長谷工グループは、2012年3月に「長谷工グループ 生物多様性行動指針」を策定しました。この指針に従い、2012年度より、国土交通省による防波堤外側の埋め立て地に苗木を植えて美しい森に変える「海の森プロジェクト」(東京都主催)や、大阪湾を臨んで広がる産業廃棄物処分場に苗木を植えて森をつくる「共生の森 植樹祭」(大阪府主催)などに参加。環境を守る社会貢献活動に、社員自らがボランティアとして参画しています。

緑の保全への達成感

その一環として、東京都が主催する「東京グリーンシップ・アクション」にも2012年度より参加しています。この活動は、東京都に残された山地の森林や丘陵部の里山、市街地近郊の雑木林など、貴重な自然環境の保全を目的として、2003年にスタートしました。東京都が中心となり、都内各地域で活動しているNPO法人、環境保全団体、企業や都民が連携して取り組んでいます。

2012年11月17日、長谷工グループ社員が「東京グリーンシップ・アクション」の一つである、清瀬松山緑地保全地域(東京都清瀬市)で行われた緑地保全活動に参加しました。東京都環境局と、NPO法人環境学習研究会、「清瀬の自然を守る会」の20名の方々の協力のもとで活動に取り組みました。

当日は「清瀬の自然を守る会」との合同ミーティングで作業の説明を受けて準備をした後、清瀬松山保全地域の自然観察や下草刈り、木柵補修、落枝・古損木の整理などを行いました。

この日は気温が低く、「思ったよりも骨が折れる作業」と言った社員もいるように、木柵補修や落枝拾いも楽な作業

ではありません。それでも、身体を動かしている間に適度に汗をかき、土や植物に触れる時間はやがて充実感に変わっていったようです。「自然の中で身体を動かすのは気持ちが良い」「マンション住まいなので、普段は緑や土に触れ合えないため、良い体験でした」といった感想もありました。

自然観察の時間では、「清瀬の自然を守る会」の方から丁寧な解説があり、「自然に対する知識が増えた」と言う社員や、緑地保全活動を通して外構設計について考える設計部門社員もいました。皆がそれぞれの視点で活動に取り組ん

グループ環境推進委員会事務局より

これからも楽しく有意義な 活動を継続していきます

東京都が主催する「東京グリーンシップ・アクション」清瀬松山緑地保全活動に参加しました。事務局として、参加する皆さんが楽しく有意義な活動をしてもらうために、東京都・NPO法人・地域ボランティアの方達と協議を重ねて、プログラム・スケジュールを計画しました。当日の天気予報は雨でしたが、ほとんど降らずにスケジュール通りに活動することができました。参加していただいた皆さんも楽しんで作業をし、良い経験ができたと思います。次回からは家族同伴での参加を予定しております。子供向けのプログラムも加えて、活動を継続していきたいと考えています。

長谷工コーポレーション
品質・環境対策室 担当部長
平井 裕史





だようです。

夕方前には全ての作業を終了しましたが、参加者の中には「もう少し身体を動かして汗をかかないと満足感が足りない。時間を長くしてほしい」と言った声もあったほど。「ボランティア活動というと被災地を連想しますが、自分が何かの役に立っているという実感がありました」といった社員もいて、皆が緑の保全活動に達成感を感じることができました。

「清瀬松山緑地保全活動」参加者より

緑地保全だけでなく 幅広い情報交換ができました

自然を見たり散歩したりすることが好きなので、その自然を守るためには具体的にどのような作業が必要なのか知りたいと思い参加しました。戸建住宅の庭の手入れではやらない作業ばかりで、雑草を根から抜かず刈るだけであったり、自然の緑地と造られた緑地では管理方法が違っていることを感じました。「清瀬の自然を守る会」の方々や長谷エグループ社員との会話を交えながらの作業で、緑地保全に関するだけでなく幅広い情報交換ができたと思います。勉強になったという気持ちと達成感、違う季節や他の地域での活動への興味が湧き、今後も積極的に参加していきたいです。

長谷工設計
設計部
津田 昌子



大阪湾岸に森をつくる

一方関西地区では、大阪湾を臨んで広がる産業廃棄物処理場：堺第7-3区に苗木を植えて美しい森をつくる「共生の森づくり」に参加しています。2013年3月3日に行われた「共生の森 第10回植樹祭」に長谷エグループ社員が参加し、NPO法人の方に植え穴の掘り方や肥料の使い方、マルチング（防草、保湿）の方法などをご指導いただき、苗木を植えました。活動の歴史や内容、そこに住む生き物や植物などの話も伺い、大変充実した一日となりました。

6月20日には、長谷エグループと大阪府港湾局が「堺第7-3区共生の森づくり共同宣言」の調印を行いました。今後5年間にわたって、「共生の森」の5,000㎡の区域で下刈りや樹木の植栽、管理を行っていきます。

社内コミュニケーションの機会として

このようなボランティア活動は、長谷エグループとしては初めての試みでしたが、こうした活動には、単に緑地保全と生物多様性への貢献に留まらない意義があると言えるかもしれません。その意義とは、社員間のコミュニケーションの促進と、社外の方との交流、社員一人ひとりのボランティア精神の育成などです。

保全活動・共生の森 植樹祭には、長谷エグループのさまざまな部署・年代の社員が参加しました。ここでは、普段は交流しない社員同士で話をする機会が生まれ、「次の機会には、周辺の方にも声をかけたいと思う」と言う社員もいて、社内コミュニケーションの促進につながっています。また、「一人ではできない（しない）ことも、仲間がいればできる」という感想もあり、ボランティア活動の大切さや楽しさを、一人でなく複数の同僚（仲間）と共有しようとする変化も生まれていると言えるでしょう。「他の地域でも、困って



いるところがあればお手伝いしたい」といった意見も聞かれ、参加者の間でもボランティア精神が育まれ、意欲も高まっているようです。

「地元の方と触れ合うことができるととても面白かった」との声もありました。昼食時には「清瀬の自然を守る会」のボランティアの皆さんが作ってくださった豚汁が振る舞われましたが、それを食べた社員が「おふくろの味」と喜ぶ場面がありました。この活動が、地元住民との貴重な親交の場となったのです。

新たな保全活動に向けて

今回活動に参加した長谷エグループ社員からは「次回も参加したい」という声が多く、「地道だが、息の長い活動にしたい」「色々な場所で開催し、もう少し回数を多くすることも必要」と言う社員もいました。また、社会とのコミュニケーションを重視する観点から、今後も必要とする意見も見られました。

関西地区では今後5年間活動を続けていくこととなりますが、東京地区でもNPO法人環境学習研究会と「清瀬の自然を守る会」の方々から、来年の再参加への要望が強くなりました。長谷エグループの環境推進委員会はこうした多くの声を受け、来年は家族同伴での参加を検討するなど、活動の新たな展開も模索しながら継続していきます。

「共生の森 植樹祭」参加者より

子供の頃の庭山を 思い出しました

私の実家は奈良の吉野で林業をやっていました。子供の頃、よく父に山へ連れて行かれ、杉や桧の苗木を植えたものです。そんな私に、「共生の森植樹祭」への要請があり快諾しました。今回は、長谷エグループから6名が参加しました。当日は、趣旨説明～準備体操～班分け～植樹方法等の説明があり、作業を開始しました。その結果、6名で2カ所（100㎡×2）の植樹エリアに、5種類の苗木を合わせて56本植樹することができました。汗をかきながら、自分たちで植えた苗木の成長ぶりが気になるので、次回の活動にもぜひ参加したいと思います。最後に植樹のあとの「ふるまいうどん」が美味しかったです。

長谷エコミュニティ
関西支社 リスク統括部 担当部長
中井 一之





1 環境方針

企業理念である「都市と人間の最適な生活環境を創造し、社会に貢献する。」に基づいて、以下の環境方針を掲げ、よりよい地球環境の保全ならびに改善を目指して活動しています。

株式会社 長谷工コーポレーション 環境方針

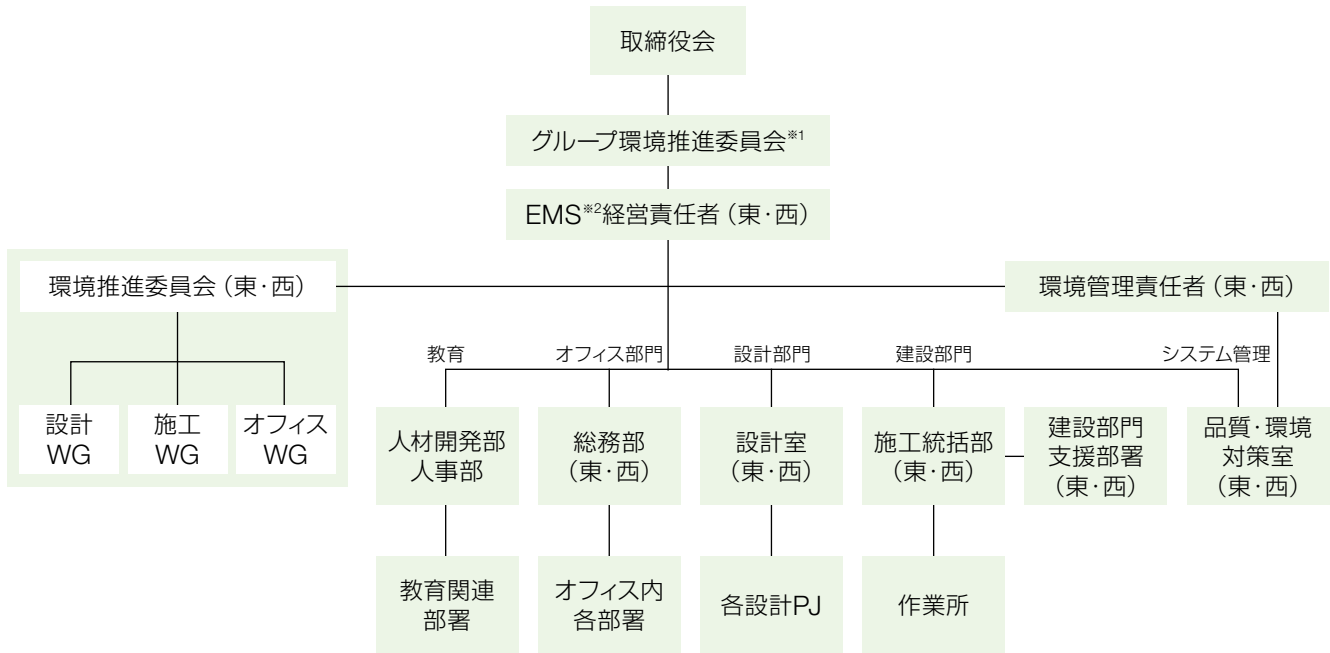
1. 環境保全活動を推進していくための環境マネジメントシステムを確立、運用、継続的な改善及び汚染の予防を図り、地球温暖化の防止を推進します。
2. 環境に関する法規、協定などを順守するとともに、必要に応じて自主基準を策定し実行します。
3. 事業活動の環境影響を評価し、技術的・経済的に可能な範囲で環境目的及び目標を設定、また、環境目的及び目標は定期的にレビューを行います。
4. 環境保全活動を推進するために、以下の項目に注力し取り組みます。
 - ①建設廃棄物の削減とリサイクル及び周辺環境に配慮した施工
 - ②環境に配慮した設計の提案
 - ③オフィス業務では、省エネルギー、資源の有効利用、グリーン購入の推進
5. 当社役職員及び当社で従事する全ての人々に対して環境方針の周知を図ると共に、協力会社に本方針の周知と協力を要請します。
6. 環境方針は公開します。



環境マネジメントシステム

環境活動を推進・展開していくために、それぞれの部門で環境目的・目標を掲げ、着実に取り組んでいます。

環境マネジメントシステム管理体制



※1：長谷工グループにおける、環境対応方針の策定・運用を行う。
 ※2：環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムの状況

ISO14001認証取得の経緯

2001年7月に関西地区、10月に東京地区でISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得しました。2012年4月より東西地区認証統合（2013年10月予定）に向けて、準備を開始し、2013年4月に環境マネジメントシステムを統合し運用を開始しました。今後も環境管理活動を継続して展開しています。

取り組み

環境保全活動を進めるにあたり、環境方針を策定、各部門は環境方針を受け環境目的・目標を定め推進しています。

継続的な改善

環境マネジメントシステムが規格要求事項を含め当社の取り決めに適合しているか、また、適切に実施され維持されているかを内部監査及び外部

審査によりチェックし、その結果を踏まえ、見直しを行い継続的な改善を図っています。

2012年度の外部審査受審日及び指摘件数は以下の通りです。

	登録日 更新日	外部審査 受審日	外部審査 指摘件数
関西地区	2001.7.1 2013.7.1	2012.6.19 2013.2.19.20 (再認証)	—
東京地区	2001.10.1 2013.10.1	2012.7.25	不適合事項1件 観察事項1件

環境法規制の順守状況

2012年度は、工事に伴う環境に関する法違反はありません。

環境マネジメントシステム

2012年度環境目的・目標と結果 及び 2013年度計画

2012年度の環境目的・目標と結果及び2013年度の計画は以下の通りです。

評価凡例

- ：目標達成
- △：ほぼ目標達成
- ×：目標未達成

2012年度環境目的・目標と結果

部門	環境目的	環境目標	目標値	東京地区		関西地区	
				結果	評価	結果	評価
設計部門	環境配慮設計の提案	環境配慮チェックシートの活用	採用件数 ÷ 提案件数 ≥ 93%	97.0%	○	94.6%	○
建設部門	建設廃棄物の削減	建設廃棄物の削減	混合廃棄物 10kg/㎡以下	6.7kg/㎡	○	5.7kg/㎡	○
		混合廃棄物のリサイクル化	リサイクル率 70%	75.28%	○	70.75%	○
	地球温暖化の防止	CO ₂ 排出量の削減	発生原単位 13.8t-CO ₂ /億円以下	13.21t-CO ₂ /億円	○	13.08t-CO ₂ /億円	○
オフィス部門	省エネルギーの推進	電力使用量の削減	2010年度実績値比 5%削減	- 17.4%	○	- 13.9%	○
	資源有効利用	コピー用紙使用量の削減	コピー・プリンター 2UP以上比率 2.6%	3.4%	○	3.2%	○
			コピー・プリンター 両面比率 29%	30.0%	○	31.6%	○
		文房具グリーン購入の推進	購入率 85%	91.4%	○	89.4%	○

2013年度計画

部門	環境目的	環境目標	目標値
設計部門	環境配慮設計の提案	環境配慮チェックシートの活用	採用件数 ÷ 提案件数 ≥ 93%
	地球温暖化の防止 ^{※1}	CO ₂ 排出量算定プログラムの活用 ^{※1}	CO ₂ 削減率 8%以上 (1990年比・専用部) ^{※1}
建設部門	建設廃棄物の削減 【混合廃棄物排出量 (2011年度比) を2015年度までに10%削減】 ^{※2}	建設廃棄物の削減	混合廃棄物の削減 10kg/㎡以下
		混合廃棄物のリサイクル化	リサイクル率 70%
	地球温暖化の防止	CO ₂ 排出量の削減	発生原単位 13.8t-CO ₂ /億円以下
オフィス部門	省エネルギーの推進 【2015年度まで2011年度 実績値以下を継続する】 ^{※3}	電力使用量の削減	2011年度実績値以下
	資源有効利用	コピー用紙使用量の削減	コピー・プリンター 2UP以上比率 3%
			コピー・プリンター 両面比率 30%
		文房具グリーン購入の推進	購入率 90%

※1：2013年度計画より、設計部門の新環境目的・目標としています。
 ※2：2013年度計画より、建設部門の環境目的の中期目標としています。
 ※3：2013年度計画より、オフィス部門の環境目的の中期目標としています。

施工における環境活動の流れ

マンション建設において、解体工事から新築工事完了の各工程で環境配慮の取り組みやコミュニケーション活動を行い、企業活動と地球環境および地域社会との良好な関係を維持しています。

マンション施工の各段階における環境活動の流れ



※ 物件により状況が異なるため、常に全ての手順を踏むわけではありません。



4

地球温暖化防止の取り組み

地球温暖化を防止するため、建設作業所やオフィスなどさまざまな場面でCO₂削減や節電などに取り組んでいます。各建設作業所では、建設機械の省燃費運転、建設発生土の場内利用、産業廃棄物の減量化による運搬車両の軽減等を積極的に実施して、CO₂排出量の削減に努めています。

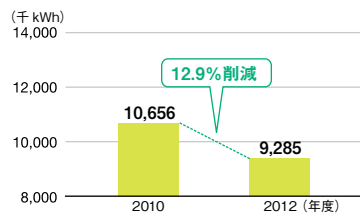
オフィスでのCO₂削減・省エネ活動



全社的な夏季節電対策

長谷工グループは2011年に引き続き、2012年も日本各地の夏の電力不足に対し、グループ体となってオフィスの節電に取り組みました。その結果、7月～9月の3カ月間にグループ全体で12.9%の節電を達成しました。

電力使用量 (7月～9月)



なお芝本社ビルでは、最大使用電力を2010年と比較して7月に22.3%、8月に22.9%、9月に20.8%、大阪平野町ビルでは、7月に19.6%、8月に22.3%、9月に24.7%削減しました。(いずれも2010年との比較)

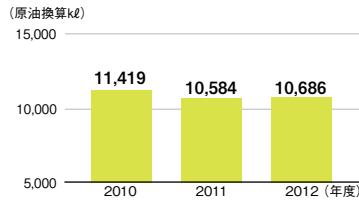
全社的に取り組んだ省エネ活動

長谷工グループは、2010年4月の改正省エネ法施行を機に、グループ体となってオフィスの省エネ活動に取り組んでいます。

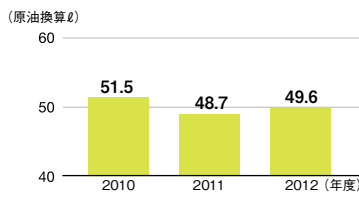
■エネルギー使用量

2012年度は、業務量が増大する中、2011年度から取り組んだ節電をグループ全社で定着させた結果、2011年度と比較し、総使用量は1.0%、1㎡あたり使用量は1.8%増加しましたが、2010年度との比較では、総使用量は6.4%、1㎡あたり使用量は3.5%削減できました。

■エネルギー使用量 (総使用量)



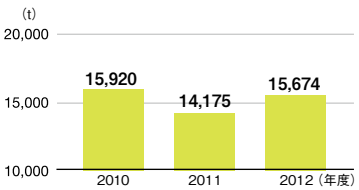
■エネルギー使用量 (1㎡あたり)



■CO₂排出量

2012年度は、CO₂排出量算定の基となる電気事業者各社のCO₂排出係数の大幅な増加により、2011年度と比較し、10.6%増加しましたが、2010年度との比較では、1.5%削減できました。

■CO₂排出量



東京芝本社ビルと大阪平野町ビルの取り組み

東京芝本社ビルと大阪平野町ビルでは、省エネ活動の他に紙資源の有効利用、資源リサイクル推進、環境汚染防止にも取り組みました。

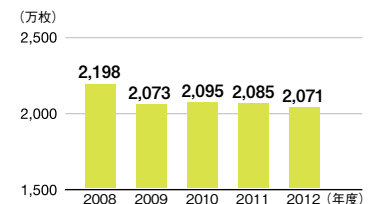
■紙資源有効利用

(コピー用紙使用量の削減)

2012年度のコピー用紙使用量は、2,071万枚でした。これは2011年度と

比較して、14万枚(0.7%)の削減です。今後も両面コピー、複数紙面2UP以上コピー、裏面使用、会議資料減量化を推進し、紙資源の有効利用を図っていきます。

■コピー用紙使用量の推移

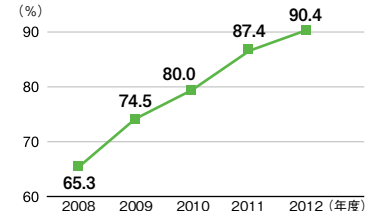


■資源リサイクル推進

(文房具グリーン購入)

2012年度の文房具グリーン購入率は、90.4%でした。これは2011年度と比較して、3.0ポイントの上昇です。購入率は、2009年度から一貫して上昇しています。

■文房具グリーン購入率の推移

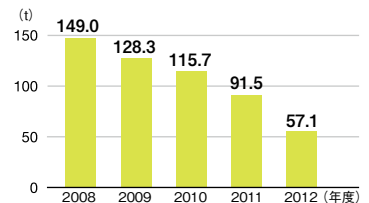


■環境汚染防止

(ゴミ総廃棄量の削減)

2012年度のゴミ総廃棄量は57.1tでした。これは2011年度と比較して、34.4t(37.6%)の削減です。今後もリサイクルボックスを活用やゴミの分別を徹底し、ゴミの減量化に取り組んでいきます。

■ゴミ総廃棄量の推移



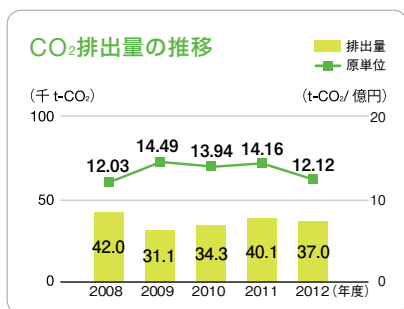
施工段階でのCO₂削減



CO₂排出量

施工段階におけるCO₂排出量削減のため、各作業所での省燃費運転講習会の開催、アイドリングストップ運転及び建設機械・車両の適正整備の励行等を行っています。

2012年度のCO₂排出量原単位は、12.12t-CO₂/億円でした。2011年度と比較して、2.04t-CO₂/億円（14.4%）減少しました。



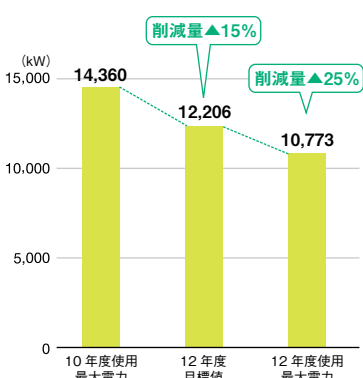
建設作業所での夏季節電対策

東西各作業所では節電行動計画のもと、夏季節電対策を実施しました。その結果、使用最大電力は目標値であ

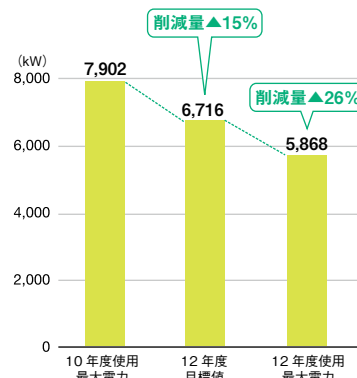
る2010年度比15%削減を大きく上回り、東京地区では25%の削減、関西地区では26%の削減を達成しました。

使用最大電力

東京地区



関西地区



現場事務所にLED照明を採用



仮設通路照明にLED球を採用



内装作業照明に蛍光灯を採用



啓発シートを活用し、全員で節電活動



仮設事務所屋根に散水し、エアコンの稼働率を低減



休憩所の通風改善と日よけの設置

地球温暖化防止の取り組み

場所打ち鋼管コンクリート杭 (STBC-SRⅡ) 採用による環境負荷の低減



杭頭部に鋼管を使用することにより、杭頭径を小さくでき、搬出残土が低減される工法を採用しています。残土搬出に伴って発生するCO₂の削減に繋がります。また鋼管内の溶接成形突起を従来サイズより小さく改良しており、溶接時の消費電力削減にもなっています。



杭頭部鋼管



鋼管内面突起

長谷エリフォーム 大規模修繕工事での取り組み



長谷エリフォームでは、今期よりグループ全体の環境推進活動に従い、大規模修繕現場でのCO₂削減量の計量を開始しました。2012年度(東京は4月～3月、関西は10月～3月のみ)の受注高5千万円以上の完工した51現場

(東京37現場・関西14現場)を計量し、CO₂排出量は70.98tとなりました。今後も引き続き排出量を把握します。来期はこのデータを基準に、さらなるCO₂削減に取り組みます(削減量についても来期より表示)。

CO₂排出量

CO ₂ 排出量	現場数	13/3 期完工	CO ₂ 排出量
電力使用量	(東京) 37 件	97,849kW	35.58t-CO ₂
	(関西) 14 件	65,078kW	21.47t-CO ₂
軽油使用料	(東京) 37 件	3,258ℓ	8.61t-CO ₂
	(関西) 14 件	2,014ℓ	5.32t-CO ₂
廃棄物排出量	(東京) 37 件	723t	—
	(関西) 14 件	1,635t	—
合計(原単位)	(東京) 37 件	原単位	2.05t-CO ₂ / 億円
	(関西) 14 件	原単位	1.17t-CO ₂ / 億円

(参考)長谷エコーポレーションの新築現場の原単位は約12.12t-CO₂/億円(2012年度)

2013年度はISO14001登録にあわせ、マニュアルの準備、指導の強化により精度の高い環境活動への対応強化を図りたいと考えています。

資源循環及び廃棄物削減の取り組み

3R運動『リデュース(減量化)・リユース(再利用)・リサイクル(再資源化)』の廃棄物削減方針のもと、協力業者の分別意識の向上・品目別リサイクルルートの開拓等により、発生抑制や分別・リサイクル活動を行い排出量削減及びリサイクルの徹底を図っています。関西作業所では、さらにリフューズ(搬入抑制)を加えた4R運動を推進しています。

建設廃棄物の適正処理及びリサイクル状況



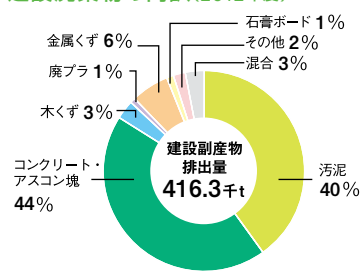
リデュース

リサイクル

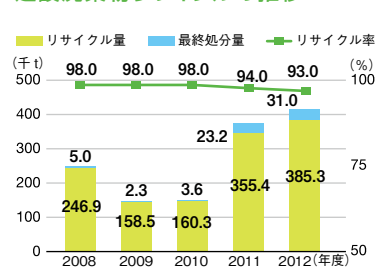
建設廃棄物の処理状況

2012年度の建設廃棄物の排出量は、新築工事212.2kt(51.0%)、解体工事204.1kt(49.0%)、合計416.3ktでした。2011年度と比較して37.7kt(9.9%)増加しました。解体工事での施工件数が7件(18.9%)増加した影響です。

建設廃棄物の内訳(2012年度)

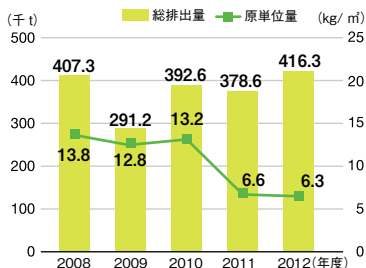


建設廃棄物リサイクルの推移



※2010年度までは汚泥を除いており、2011年度より汚泥を含んでおります。

建設廃棄物排出量の推移

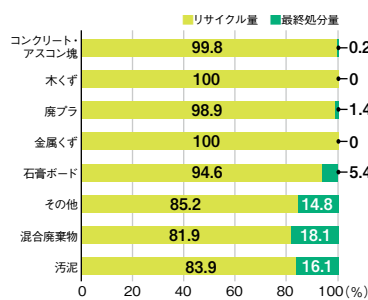


※原単位置量は、新築工事対象。
※2008年度より原単位置量は、再資源化処理施設(木くず、腐プラ)分を除いており、2011年度より混合廃棄物のみ集計しております。

建設廃棄物のリサイクル状況

2012年度の建設廃棄物のリサイクル量は、新築工事182.8kt(86.1%)、解体工事202.5kt(99.2%)、合計385.3kt(92.6%)でした。解体工事では、冷媒フロン3.8t及びハロン1.4tの回収・破壊処理、アスベスト92.5tを適正に処理・処分しました。

品目別処理の内訳(2012年度)



廃棄物削減の取り組み

4R運動の推進による廃棄物の削減



リデュース

リサイクル

建設作業所から排出される廃棄物のより一層の削減と循環型社会形成のため、関西の各作業所では『4R運動』を推進しています。その運動の一環として、メーカー・代理店と協力して作業所に搬入される商品・資材の梱包材の削減に取り組んでいます。例えば、排水縦管の梱包材とりやめや通い箱利用(4Rのリフューズ)、暖房便座・照明器具・各戸分電盤といった資材・商品の梱包材省力化(4Rのリデュース)により作業所から排出される廃プラスチック・段ボールといった廃棄物

が削減されています。



メーカーボックス内で使用する分岐ブレーカー

プレキャストコンクリートの採用による環境負荷の低減



CO₂削減

省資源

工業製品であるプレキャストコンクリートの採用により、201,153m³の熱帯雨林材の削減を行いました。また施工現場での材料加工がなくなるため、端材等の産業廃棄物の発生や騒音、粉

じんも抑制されます。その他、建設現場内で鋼製型枠を組み立て、プレキャストコンクリートを製作する工法(サイトPCa工法)も進めており、搬入車両の現場への出入りを減少させるため、CO₂排出量の削減にも繋がっています。



施工状況



鋼製型枠

資源循環及び廃棄物削減の取り組み

グリーン調達への取り組み



資材調達の際、環境負荷の小さいものから優先的に選択する取り組みがグリーン調達です。2012年度のグリーン調達の取り組みは、グリーン調達資材10品目について調査し、数量を把握しました。今後対象品目については、グリーン調達の実績・社会情勢等を考慮して、随時見直し・追加していきます。

品目	単位	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
電炉鋼材（鉄筋）	千t	160	149	172	224	197
高炉セメント生コン	千m ³	249	241	203	258	241
再生利用タイル	千m ²	460	248	375	513	529
再生石膏ボード	千m ²	3,788	3,311	3,523	3,975	4,121
パーティクル材（二重床）	千m ²	143	65	53	62	155
スチレン素材（壁下地パッキン）	m ³	172	192	192	211	285
節水型便器	千台	—	—	12	18	13
屋上緑化	千m ²	—	—	3	6	7
浸透性舗装	千m ²	—	—	15	20	25
SUS管（共用部給水配管）	t	—	—	72	90	84

※スチレン素材（壁下地パッキン）は、2008年度より、及び節水型便器・屋上緑化・浸透性舗装・SUS管（共用部給水配管）は、2010年度より算出しています。

グリーン調達への取り組みによる環境負荷の低減

廃棄物を原材料や副資材としてリサイクルして製品化し、新材料からの調達による環境負荷を低減させ、CO₂排出量の削減を図ります。

■パーティクルボード

パーティクルボードは、チップにした廃木材に接着材を塗布し、熱圧成形した再生木材製品で、置床材や収納家具等に使用しています。

2012年度の搬入実績は3,786tで、約2,500tのCO₂削減となりました。



廃木材



廃木材チップ



パーティクルボード

■高炉セメントB種

製鉄所の高炉で銑鉄を製造するときに、副産物（鉍石中の不純物等）として生成される高炉スラグの微粉末を材料に使用することで、石灰石の約40%の節約、CO₂排出量の約45%を削減できます。ひび割れの抑制、耐化学性にも優れており、主に杭コンクリートに採用しています。

2012年度は181,123m³使用し、約17,200tのCO₂削減となりました。



杭コンクリート打設状況

施工部門における教育の取り組み



リデュース



リサイクル

新入社員への教育

新入社員を対象として、建設作業所から発生する産業廃棄物の種類や分別管理の取り組みについて実地研修を行っています。

産業廃棄物中間処理施設の見学も行い、施工現場から排出された建設廃棄物がリサイクルされるまでの流れを見学し、作業所における分別の重要性とリサイクルの大切さを学んでいます。



作業所の見学



中間処理施設



最終処分場見学

解体重機の省燃費運転DVDによるCO₂削減への取り組み

東京地区の解体現場では、解体着工時に重機のオペレーターを含めた作業員に対して、教育用にオリジナルの「解体工事における重機の省燃費運転DVD」を使って、CO₂削減講習会を実施しています。

このDVDは、使用重機の燃料消費についての実態を調査・分析し、作成したものです。各作業員が環境に配慮した施工を意識しながら工事にあたっています。



施工状況



作業員への講習会



DVDの内容



6 環境配慮の取り組み

マンションの設計段階から「環境配慮設計の提案」に取り組んでいます。また、東京都環境配慮設計制度等、各都市のCASBEE、省エネ法にも対応しています。

CO₂排出量算出プログラム



2011年に開発した「CO₂排出量算出プログラム」*の運用を継続しています。2012年4月1日から2013年3月31日の間に設計した125案件（東京：93案件、関西：32案件）で運用し、年間戸当たり平均値は以下の結果となりました。なお東京と関西では、オール電化（エコキュート）採用率の違いにより差が生じ

ています。

また、2013年度ISO14001（設計部門）において、新たに環境目的「地球温暖化の防止」・環境目標「CO₂排出量算出プログラムの活用」・目標値「CO₂削減率8%以上（1990年比・専用部）」が設定されました。

*集合住宅の専用部・共用部の各仕様によるCO₂排出量とランニングコストを算定・比較出来るプログラム（比較対象は京都議定書におけるCO₂削減率算出の基準年である1990年の当社基本仕様）。また、2010年に開発した「植栽計画によるCO₂削減量算出プログラム」と合わせて、案件全体のCO₂排出量の算定が可能です。

		東京	関西
マンション全体のCO ₂ 排出量		2,877Kg-CO ₂	2,458kg-CO ₂
1990年の当社基本仕様との比較	CO ₂ 削減率	▲9.2%	▲12.6%
	ランニングコスト削減率	▲7.8%	▲12.2%
	削減額	▲14,247円	▲22,327円

環境に配慮した住宅設備機器

省エネ給湯機器の採用促進



環境保全・配慮という点から、従来のガス給湯器より熱効率に優れた「エコジョーズ」の採用を促進、またオール電化マンションでは「エコキュート」を採用しています。

「エコジョーズ」は、従来捨てていた排熱を再利用することにより給湯効率を約80%から約95%に向上させ、CO₂排出量を約13%削減できます。「エコキュート」は、自然冷媒CO₂を採用し、高いAPF*でランニングコストの低減を図り、環境問題であるオゾン層破壊係数をゼロにします。地球温暖化係数はフロン系冷媒の約1/1700を

実現しています。このような環境配慮型機器の採用を提案し、2012年度竣工戸数ベースでは約87%の採用を行い、環境配慮や省エネルギーに貢献しています。

*APF (Annual Performance Factor) = 年間給湯効率。(社)日本冷凍空調工業会の規格であるJRA4050:2007Rに基づき、消費者の使用実態を考慮に入れた給湯効率を示すため、1年間を通し、ある一定の条件のもとにヒートポンプ給湯器を運転した時の単位消費電力量あたりの給湯熱量を示したもの。

しており、2012年度竣工戸数ベースでは約45%で採用しています。今後もゴミの減量等、さらなる環境負荷低減のため、ディスプレイシステムの採用を推進していきます。



当社採用のディスプレイ

ディスプレイシステムの採用促進



ディスプレイシステムは、ゴミの削減や排水汚濁負荷の低減等、環境に配慮したシステムです。積極的に採用を推進

環境配慮設計の事例



省エネルギー 環境配慮

環境問題への取り組みとして自然エネルギーの利用（太陽光発電）や省エネルギー機器（LED照明）の採用を積極的に推進し、CO₂の削減に取り組んでいます。

プラウドシティ浦和 （さいたま市浦和区前地）

「プラウドシティ浦和」では、屋上にソーラーパネルを設置し、共用電灯に系統連系することで、使用電力を削減しています。エントランスや外構照明の一部に消費電力の少ないLED照明を採用し、建物全体で省エネルギー化を図っています。

また、電気自動車の普及に備え、駐車場の一部に電気自動車充電設備を設置しています。



ブレイジアブランチ東園田 （尼崎市東園田）

「ブレイジアブランチ東園田」は、関西最大級の全戸別供給型太陽光発電システムを採用しています。無限の再生エネルギーを利用した発電や、余った電力の売電が可能で、節電意識の向上と環境負荷の低減に貢献します。1住戸の発電出力が約1.2kW、年間発電量は1,235kWh（年間消費電力の約25%に相当）が期待できます。これによりマンション全体で年間87.2tのCO₂排出量を削減します。

建築物の環境性能を評価し格付けする「CASBEE」（建築環境総合性能評価システム）では最高評価「Sランク」を取得しました。冷暖房負荷を軽減する「複層ガラス」や高効率給湯器「エコジョーズ」、保温浴槽、節水便器などの省エネ設備を導入し、外構には緑量豊かな植栽を取り入れて良好な周辺環境を形成、内部

環境と外部環境の両面に配慮した計画が高く評価されました。

また本計画は、「環境」を一つのコンセプトとする長谷工の次世代型マンション「Be-Next」を採用しており、高さ約2.1mのハイサッシや光と風を誘い込む「窓付き玄関」によって住空間の明るさと通風の基本性能を充実させ、環境性能を向上しています。



屋上の太陽光発電システム（完成予想図）



約2.1mのハイサッシ

生物多様性に配慮した活動



緑化

生物多様性

既存樹に配慮した施工

一部の建設作業所では、生物多様性や地球環境に配慮した取り組みとして、既存樹を保全しながら、施工を行っています。

「パークシティ武蔵野桜堤」（東京都武蔵野市）では、樹木医による既存樹の診断を行い、大径木はその場で保存、その他は移植などにより保全・再利用を行っています。

既存樹に配慮した施工計画として、休憩所の配置やクレーンの設置位置などを検討したり、施工中は既存樹保

護のため、現場作業員の立入禁止措置や掲示などによる啓発活動を実施しました。また、「ライオンズプレティナレジデンス」（名古屋市東区）では、樹齢100年のクスノキを移植し、保存樹として残しています。



樹齢100年のクスノキを移植



既存樹の保護状況

環境配慮の取り組み

緑化によるCO₂削減量：▶総CO₂固定量 (kg CO₂/年) ▶ペットボトル500ml換算 (本/年)

豊かな住環境創りの事例



プラウドシティ浦和 (さいたま市浦和区前地)

多種多様な植物で植栽を構成

「プラウドシティ浦和」は、都市開発版SEGES^{シージェス}（社会・環境貢献緑地評価システム）を、マンション事業として首都圏で初めて取得しました。これは財団法人都市緑化機構が運営する、緑の保全・創出により社会・環境に貢献する開発事業を評価し、緑のまちづくりを推進するもので、いわば「緑の認定」です。

緑化率30%を超える計画敷地内には、街の景観を象徴するセンタープロムナードの並木、個性ある二つの提供公園、特殊緑化の技術を採用した屋上緑化や壁面緑化による緑化ウォール、貴重な既存樹を活用したオータムフォレスト（どんぐりの森）、家族がのびのび遊べるファミリーパークなど、様々に演出された緑地がつながりを持って配置され、緑のネットワークを形成しています。これら緑豊かな共用施設やオープンスペースを活用してコミュニティづくりを楽しめるよう、ミニコンサートやガーデニング教室などの住民参加プログラムが企画されています。

また、「プラウドシティ浦和」の植栽計画は、地域の在来種を中心とした多種多様な植物により構成されています。周辺調査に基づく野鳥や昆虫類の誘引や育成を促進する生物多様性保全の環境整備を目指したものです。

▶5,447.86 (kg CO₂/年) ▶5,992,646 (本/年)



プラウドシティ稲毛海岸 (千葉市美浜区稲毛海岸)

屋上には共有菜園を設置

「プラウドシティ稲毛海岸」は、民有地としてのマンション街区、戸建街区、商業施設街区、公共空間としての3か所の提供公園、歩行者専用道路、道路の街路樹や植栽など管理や所有形態の異なる緑地、オープンスペースを一体的な空間とし、新しい街並み形成を実現しました。

敷地は埋立地にあり、かつては東京湾に面する白砂青松の海浜リゾートとして、大正時代より文人墨客が訪れ海水浴や潮干狩りを楽しんだ景勝の地でした。海浜リゾートを想起させるランドスケープデザインを南欧風の色調の戸建群やマンション建物と合わせた、一体的な街並みを形成しています。スケールの異なる建物群のつながりを持たせるために、植栽や外構には共通性のある素材を使用しました。また、街の中心に位置する公園と集会所は一体的な利用が可能となし、壁面緑化を設けて近接する戸建て建物や街並みに対して配慮しました。屋上には共有菜園を設け、建物内外が新しい住民のコミュニケーションの場として機能するよう計画しました。

▶3,142.49 (kg CO₂/年) ▶3,456,739 (本/年)



ミリカ・ヒルズ(吹田市千里丘北)

従前の緑豊かな環境を継承

「ミリカ・ヒルズ」は、毎日放送千里丘放送センター跡地約13haに計画された関西最大級約1,500戸の『ミリカの丘構想』の初街区となる集合住宅です。吹田市の環境影響評価制度(環境アセスメント)に沿って計画され、地域の人々に親しまれている千里万博公園の約40年かけて再生された緑の森に学び、「森の再生」をコンセプトとし、計画地に先駆けて保存緑地・提供公園の整備を行いました。また、地域の花見の名所として親しまれていたサクラ並木を含む、ヤマモモ・ケヤキの保存または移植を行い、従前の緑豊かな環境を継承しています。

本計画は分譲マンション事業では日本初となるシグナスSEGESの認定を取得しています。

▶4,772.34 (kg CO₂/年) ▶5,249,574 (本/年)



ベイサイドシティコスモスクエア駅前 (大阪市住之江区南港北)

緑地を確保し、潤いある空間を創出

「ベイサイドシティコスモスクエア駅前」は運河に隣接しており、地区計画で運河沿いの賑わいの演出が求められていました。運河側は急勾配の法面でしたが、彩り豊かで緑量を感じられる植栽計画とすることにより、対岸の集合住宅との差別化を図るとともに魅力ある運河沿いの景観を創造しました。

コスモスクエア駅から計画地まではペDESTリアンデッキの通路が伸びており、エントランスと店舗に接続します。また、WTCへ向かう人の動線ともなるため、住棟へのアプローチ部分を最小限とすることで、彩りある緑地を確保し潤いある空間を創出しました。

▶1,215.85 (kg CO₂/年) ▶1,337,435 (本/年)



研究・技術開発の取り組み

研究・技術開発においては、健康で快適な住宅・住環境、地域環境の創造を目指す中で、地球温暖化防止、自然エネルギー利用・省エネルギーの推進、資源の循環、廃棄物の削減等、環境問題に取り組んでいます。

■ 長谷工コーポレーション 技術研究所

研究・技術開発の拠点である技術研究所（埼玉県越谷市）では、日本で唯一の実物大の住宅性能試験棟をはじめ、熱環境試験棟、構造材料試験棟などを保有し、集合住宅にかかわる基礎研究から技術開発まで幅広い活動を行っています。近年は、再生エネルギー利用、省CO₂・省エネ、建物の長寿命化といったテーマで、環境技術・リフォーム技術の研究に注力しています。また、技術研究所内に技術展示コーナーを設置し、環境への取り組みについて、社外に向けて積極的に説明・PRを行っています。



技術研究所・住宅性能試験棟



技術研究所・環境展示コーナー



太陽光発電パネル

環境負荷低減・省エネルギー関連技術



省エネルギー

CO₂削減

省資源

共同住宅の総合省CO₂改修技術の構築 (平成24年度(第2回)「住宅・建築物省CO₂先導事業」に採択)

長谷工リフォームは、築30年程度の壁式低層共同住宅の長寿命化と省エネ性能を向上させる「総合省CO₂改修メニュー」を構築しました。第1号案件として多摩ニュータウン「エステート鶴牧4・5住宅」(356戸・29棟・1982年竣工)に採用され2013年2月に着工しました。(2014年3月完了予定)

本プロジェクトは国土交通省が主催する「平成24年度(第2回)住宅・建築物省CO₂先導事業」に採択され、国から補助金を受けて事業を推進しています。総合省CO₂改修は、「外断熱改修」・「設備の高効率改修」・「耐震改修」・「スマート化改修」・「その他改修」という5つのメニューで、居住者に生活負担の少ない改修で構成されています。「外断熱改修」では快適性の向上や結露の抑制の他、建物の長寿命化による資産価値の向上が期待できます。

また、長谷工アネシスの「スマート化改修」を含めてCO₂排出量を約23%削減(当社試算)できるなど、環境・省エネ性能の向上に寄与します。



エステート鶴牧4・5住宅



外壁外断熱改修施工状況

通風を考慮した室内環境の検証

春・夏・秋には、窓を開け積極的に通風を取り入れることで室内の快適性が向上するだけでなく、冷暖房費用の削減にもつながりますが、通風を有効に利用する場合、その地域の気象条件や立地、開口部の大きさ、室内の建具の形状など様々な要

素でその効果が異なります。

当社開発の「Be-Next」などのマンションでは、玄関の脇に開口を設けるなど、積極的な通風の利用を図っています。

採用する際は、事前の検討だけでなく、実際の現場でその効果を検証しています。今後も、快適性と省エネを両立した住まいを実現するための研究開発を進めていきます。



開口面の測定



通風経路上の測定

屋上ソーラーパネルの低基礎工法の開発

近年、環境への配慮や省エネルギーの観点からソーラーパネルの導入が増えているなか、法律や行政指導によりソーラーパネルの高さを抑えなければならぬ場合があります。

そこで、ガラス繊維補強セメント製の「ベースキャップ」を採用した低基礎工法（特許申請中）を開発しました。この基礎の上にソーラーパネルを低角度で取り付けることで、従来と比較して大幅に低く設置することが可能になります。また、コンクリート形状をシンプルにしたことで、施工省力化とともに型枠廃材の削減も実現しました。

現在、当社設計・施工の案件「ブリリアシティ横浜磯子」、「オーベル蘆花公園」に採用しています。今後も引き続き提案していきます。



低基礎工法によるソーラーパネル

低炭素建築物認定制度への取り組み （「低炭素建築物認定制度」に認定）

「都市の低炭素化の促進に関する法律」（通称、エコまち法）に基づく低炭素建築物の認定制度が2012年12月4日に公布され、同日施行されました。低炭素化に関する先進的な基準に適合する建築物に係る認定制度で、建設地の所管行政庁が認定を行います。

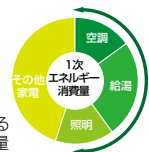
エネルギーの効率的運用や地球温暖化問題に対する意識が高まる中、同制度の活用によって環境に配慮した住宅を提供することの社会的意義を

踏まえ、当社では、同認定の取得に向けて具体的事業を推進。2013年9月現在、埼玉県内で計画中の「志木柏計画」、京都市内に建設中の「ブランシエラ二条城」の2件のプロジェクトで認定を取得しています。

認定基準について

【必須項目】 現行の改正省エネ基準より10%以上1次エネルギー消費量を抑える省エネ性能

- ① 高い断熱性能
- ② 高効率な給湯設備
- ③ 高効率照明



*NEDOデータより引用
集合住宅（60㎡）における標準1次エネルギー使用量

上記省エネ性能より、全体の約半分以上を占める空調・給湯・照明関連における1次エネルギー消費量を抑制します。



【選択的項目】 低炭素化をアシストする項目

- ① 節水対策
- ② HEMSの導入
- ③ ヒートアイランド対策
- ④ 建築物の低炭素化

左記より
2項目選択

または

CASBEE Aランク以上等
低炭素化に資する建築物として
所管行政庁が認めるもの

長寿命化関連技術

住みながら補強を可能にする「柱増し打ち工法」の耐震性能に関する研究

マンションに長期間安心して住み続けていくためには、必要に応じて耐震補強を行うことが重要です。東日本大震災以降、住まいの耐震性向上に対する需要は益々増加しています。

しかし、多くの改修工法は工事中に一時退去が必要であったり、補強後に機能や使い勝手が損なわれたりする等の理由で、耐震補強がなかなか進まないのが実状です。この改修工法は、マンションに住みながら、また補強後に機能や使い勝手を損ねることもなく効率的に改修工事が行えます。今後は本工法を活用

して耐震補強が必要なマンション等の耐震性能の向上に寄与していきます。



縮径しないシート防水用立て型ルーフトレン改修法の開発

マンションの防水工事の改修に伴うルーフトレンを改修する場合、既存のルーフトレン金物の内径より小さい径のパイプを被せ、ルーフトレンを縮径させる工法が一般的に行われています。また、改修用のストレーナも詰まりやすい形状のものも多く使用されています。その結果、

昨今のゲリラ豪雨や枯葉等による目詰まりにより、ドレン廻りが溢れたという事例も顕在化しています。

今回、シート防水による改修時に縮径しないルーフトレンの改修工法と、メンテナンスを考慮した目詰まりしにくいストレーナを開発しました。今後のシート防水の改修工事において、新しいルーフトレン改修方法として提案していきます。

目詰まりしにくい
ストレーナ



縮径しないドレン施工状況



研究・技術開発の取り組み

排水立て管更新工法「HK-D工法」の開発

築後30年を超えたマンションが全国で100万戸を超え、経年劣化に伴うマンションの設備インフラに対する更新工法開発が期待されています。当社では先に、騒音や振動を抑えながら短期間で住戸内の排水立て管を更生（修繕）する「HAM-J工法」を開発しています。

今回開発した、排水立て管すべてを



HK-D工法モックアップ

更新(取替)する「HK-D工法」(特許申請中)は、住戸内を貫通している排水立て管の上下を切断撤去、床スラブに打ち込まれた排水継手部分を縮径させ、油圧

ジャッキで下階から押し上げ撤去します。撤去後は立て管貫通穴にすっぽりと納まる新開発の更新用特殊通気継手(継クボタとの共同開発)で更新を行います。従来の更新工事とは異なり床スラブを壊す必要がないので、お住まいのまま更新(取替)することが可能な工法です。

低振動・低騒音・躯体低損傷をめざした改修工事足場用スクリュアンカーの適応検証

改修工事の足場は打ち込み式アンカーで固定することが一般的です。打ち込み式アンカーは建物のコンクリートにドリルで孔を開け、その孔にハンマーで打撃しながらアンカーを挿入して固定します。ところが、打撃時に大きな振動や騒音が発生したり、コンクリート躯体へも損傷を与えたりする問題があります。

これらの問題を解決するために、スク

リュアンカーの採用を検討しました。スクリュアンカーでは、コンクリートにアンカーをねじ込んで固定するために、発生する振動や騒音を小さくできます。

また、ねじ込んだ時と逆方向に回転することでアンカーを回収できる等、アンカーが埋まったままとなる打ち込み式より、躯体に与える損傷も小さくすることができます。

今後は、スクリュアンカーの引き抜き強度やせん断強度を実験によって検証した上で、改修工事の足場固定にスクリュアンカーを使用するルール詳細を定め、積極的に採用していきます。



スクリュアンカーの引張り強度試験

環境向上関連技術



環境配慮

室内音響の向上に関する取り組み

(界壁の遮音性能に関する実験検証)

集合住宅の界壁(戸境壁)の工法は、①コンクリート壁と内装壁を組み合わせる場合②コンクリート壁単体で構成する場合などがあり、それぞれに性能や機能上の利点があります。

当社では、①のコンクリート壁と内装壁を組み合わせた界壁について、集合住



遮音実験

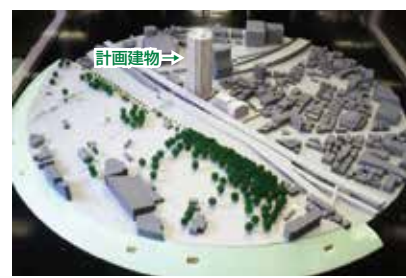
宅を再現した実物大の実験棟で、遮音性能の実験検証を行っています。コンクリート壁と内装壁の組み合わせによる遮音性能は、一般にコンクリート壁より低音域が低下する一方、高音域が大きく向上しますが、内装壁の各種条件による性能の分析を通じて、高音域の向上と低音域の低下の抑制を両立する工法の確立に取り組んでいます。

超高層建物周辺の風環境対策への取り組み

建物を建設することにより周辺の風の流れが変わり、敷地周辺の風環境にも影響を与える可能性があります。このような敷地周辺風環境への影響は、計画建物の規模や形状および周辺の既存建物の状況などによって異なりますが、

超高層建物の場合、影響は一般的な建物と比較して大きくなる事が予測されます。

当社では、超高層建物の企画設計段階で、周辺の既存建物を含めた数値解析によるシミュレーションを実施し、敷地内緑地の配置や増設等、周辺風環境を配慮した提案を行っています。また、最終段階では風洞実験による風環境評価を行い、追加対策の必要性の有無と計画した対策効果の確認を行っています。



風洞実験

マテリアルフロー

2012年度の当社の事業活動に関わる資源・エネルギーの投入量と、CO₂・廃棄物などの排出量を定量的にまとめたものを以下に示します。

INPUT

施工活動投入資源

主要建設資材

鉄筋	197千t	再生利用タイル	529千㎡
鉄骨	1.5千t	再生石膏ボード	4,121千㎡
生コンクリート	1,483千㎡	パーティクル材(二重床)	155千㎡
		スチレン素材(壁下地パッキン)	285㎡

グリーン調達資材

電炉鋼材(鉄筋)	197千t	節水型便器	13千台
高炉セメント生コン	241千㎡	屋上緑化	7千㎡
		浸透性舗装	25千㎡
		SUS管(共用部給水配管)	84t

施工活動投入エネルギー

電力	11,465千kWh
軽油	12,379kℓ
灯油・重油	185kℓ

オフィス活動投入資源・エネルギー

電力	6,628千kWh
コピー用紙	20,714千枚
水	34千㎡

投入

投入

再生利用量
385.3千t

再生

事業活動

研究・技術開発

企画・設計

施工(解体含む)

運用・維持

排出

OUTPUT

施工活動

CO ₂ 排出量(新築工事)	37千t-CO ₂
アスベスト処理量	92.5t
フロン・ハロン回収量	5.2t
建設廃棄物	416.3千t

オフィス活動

CO ₂ 排出量	2.3千t-CO ₂
一般廃棄物	67t
排水	32千㎡

処分

最終処分量
31.0千t

環境会計

環境保全活動を定量的に把握し効率的に推進していくために、2004年度より環境会計を導入しています。



基本的事項

■集計範囲

株式会社 長谷工コーポレーションの活動

- ①完成工事174作業所（新築：130、解体：44）
- ②オフィス（東京芝本社ビル、大阪平野町ビル）

■対象期間

2012年4月1日～2013年3月31日

■集計方法

「環境会計ガイドライン2005年版」（環境省）、「建設業における環境会計ガイドライン2002年版」（建設業3団体（現・日建連））を参考に、以下の項目について集計しました。

(1) 事業エリア内コスト

- 1) 公害防止コスト：大気汚染、水質汚濁、騒音・振動防止対策等の費用を集計しました。
- 2) 地球環境保全コスト：温暖化防止、省エネ、オゾン層破壊防止対策等の費用を集計しました。
- 3) 資源循環コスト：廃棄物の分別・リサイクル、適正処理等の費用を集計しました。

(2) 上・下流コスト

環境配慮設計提案に要した人件費を集計しました。

(3) 管理活動コスト

環境保全管理活動費及びISO14001：2004運用・維持費を集計しました。

(4) 研究開発コスト

環境保全に関連する研究・技術開発費を集計しました。

(5) 社会活動コスト

環境関連団体・地域への寄付、支援等の費用を集計しました。

(6) 環境損傷コスト

周辺環境補修費及びマニフェスト伝票購入費（基金分）を集計しました。

■環境保全コスト

分類	主な活動内容	費用額(百万円)				
		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
事業エリア内コスト		3,719	2,067	2,298	2,905	2,864
①公害防止コスト	作業所での公害防止対策費	233	153	213	247	340
②地球環境保全コスト	アイドリングストップ活動費、フロンガス適正処理費	10	3	8	13	13
③資源循環コスト	建設廃棄物の分別・リサイクル、適正処理費	2,936	1,911	2,077	2,645	2,511
上・下流コスト	環境配慮設計人件費	8	4.5	7.2	7.6	7.2
管理活動コスト	ISO14001登録・審査・運用費 ISO14001活動人件費 環境負荷監視測定費 環境関連教育費	228	195	246	297	258
研究開発コスト	環境関連技術の研究・技術開発費	113	146	74	75	47
社会活動コスト	環境関連団体・地域への寄付金	9	1.5	2.8	0.4	0.5
環境損傷コスト	周辺環境補修費 マニフェスト伝票購入費（基金分）	87	52	67	100	65
環境保全コスト総額		3,624	2,466	2,695	3,385	3,242

■環境保全効果

項目		単位	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	
事業エリア内の効果	施工活動	建設廃棄物排出量	千 t	407.3	291.2	392.6	378.6	416.3
		建設廃棄物再生利用量	千 t	(246.9)	(158.5)	(160.3)	355.4	385.3
		建設廃棄物最終処分量	千 t	(160.4)	(132.7)	(232.3)	23.2	31.0
		CO ₂ 排出量 (新築工事)	千 t-CO ₂	42.0	31.1	34.3	40.1	37.0
		CO ₂ 原単位 (新築工事)	t-CO ₂ /億円	12.03	14.49	13.94	14.16	12.12
	オフィス活動	電力使用量	千 kWh	8,433	8,215	7,891	6,871	6,628
		コピー用紙使用量	万枚	2,198	2,073	2,095	2,085	2,071
		CO ₂ 排出量	t-CO ₂	2,992	2,884	2,725	2,390	2,317
		一般廃棄物排出量	t	177.9	154.5	142.8	111.8	66.8
		上・下流の効果	グリーン調達	電炉鋼材 (鉄筋)	千 t	160	149	172
高炉セメント生コン	千 m ³			249	241	203	258	241
再生利用タイル	千 m ²			460	248	375	513	529
再生石膏ボード	千 m ²			3,788	3,311	3,523	3,975	4,121
パーティクル材 (二重床)	千 m ²			143	65	53	62	155
ステン素材 (壁下地パッキン)	m ²			172	192	192	211	285
節水型便器	千台			-	-	12	18	13
屋上緑化	千 m ²			-	-	3	6	7
浸透性舗装	千 m ²			-	-	15	20	25
SUS 管 (共用部給水配管)	t			-	-	72	90	84
文房具グリーン購入率	%			65.3	74.5	80.0	87.4	90.4

※事業エリア内の効果、施工活動：建設廃棄物再生利用量は、(2010年度までは汚泥を除いており) 2011年度より汚泥を含んでいます。

※事業エリア内の効果、施工活動：建設廃棄物最終処分量は、(2010年度までは汚泥を含んでおり) 2011年度より汚泥の再生利用量は除いています。

※上・下流の効果、グリーン調達：ステン素材 (壁下地パッキン) は、2008年度より、及び節水型便器・屋上緑化・浸透性舗装・SUS管 (共用部給水配管) は、2010年度より算出しています。

集計の結果

- 2012年度に支出した環境保全コストの総額は、3,242百万円でした。2011年度と比較して、143百万円 (4.2%) 減少しました。
- 環境保全コストの88.3%が「事業エリア内コスト」で、そのうちの87.7%を「資源循環コスト」が占めました。資源循環コストは2011年度と比較して134百万円 (5.0%) 減少しました。
- 建設廃棄物排出量は、2011年度と比較して37.7千t (9.9%) 増加しました。
- 施工活動のCO₂排出量 (新築工事) は、37.0千t-CO₂でした。2011年度と比較して3.1千t-CO₂ (7.7%) 減少、原単位での比較では12.12t-CO₂/億円で2.04t-CO₂/億円 (14.4%) 減少しました。
- オフィス活動によるコピー用紙使用量は、20,714万枚でした。2011年度と比較して13.8万枚 (0.7%) 減少しました。
- オフィス活動のCO₂排出量は、2,317t-CO₂でした。2011年度と比較して73t-CO₂ (3.1%) 削減しました。

コーポレート・ガバナンス

経営における透明性と客観性の確保のために、コーポレート・ガバナンスの強化に努めています。



コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、お客様本位の事業活動を通じて社会に貢献し、信頼を得ることを経営の基本方針としています。また、長期安定的に企業価値を最大化し株主の皆様の利益を確保するためには、経営における透明性と客観性の確保は不可欠であることから、コーポレート・ガバナンスの強化を経営の最重要課題の一つと位置付けています。

会社の機関の基本説明

当社は、会社の機関として監査役制度を採用しています。当社の取締役会は、各事業部門における専門的知識と

経験を備えた取締役が、経営の意思決定と他の取締役の職務執行の監督を行い、経営の監視機能の面は、客観的、中立の経営監視の機能として、過半数の社外監査役を含む監査役会による監査が実施される体制を取っています。その上で、2011年6月より豊富な経験と実績を持つ社外取締役1名を加えることにより、適切な意見や助言を受けて、取締役会における議論をさらに活性化させ、あわせて経営の監視機能を高めることとしています。今回これを2名に増員することにより、さらに取締役会の機能を高めることになると考えており、今後も引き続き、取締役会の運営と経営の監視機能の面のバランスを踏まえた当社として最適な体制を模索していきます。

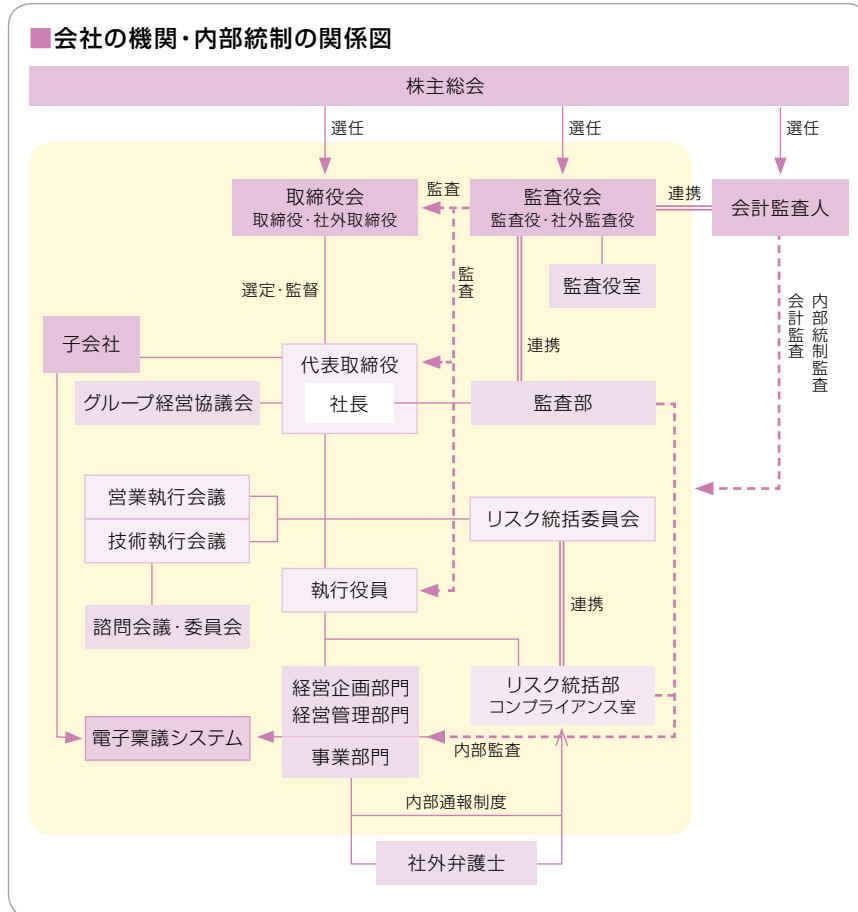
また、取締役から授権された一定事項の意思決定については、取締役の参

加を一定限度にとどめた営業執行会議及び技術執行会議の各執行会議を行うことで、意思決定とそれらを監督する機能の役割を分け、各取締役が他の取締役の職務執行の監督を行える体制をとっています。さらに、重要な取締役会決議事項についての事前審議機能については、2つの業務執行会議での事前審議の他、グループ経営協議会を設置して行っています。

会社の機関の内容

- ①取締役会は、毎月1回の定期開催に加えて、必要に応じて臨時での開催を行うこととしており、経営に関する重要な意思決定及び定例報告の他、定期的に業務執行取締役より業務執行報告が行われています。
- ②取締役会から授権された範囲で日々の業務執行事項に関する意思決定を機動的に行うため、2つの業務執行会議「営業執行会議」「技術執行会議」を設置しています。その際、取締役の各業務執行会議への参加は一定限度にとどめることで、意思決定とそれらを監督する機能の役割を分け、責任と権限の明確化を図っています。なお、重要な取締役会決議事項についての事前審議機能については、2つの業務執行会議での事前審議の他、グループ経営協議会を設置して行っています。
- ③リスク統括委員会は、社長を委員長として四半期に1回の開催に加えて、重大リスク発生時には必要に応じて臨時で開催することとしており、リスク管理に関する社内規程やリスク予防計画等の策定及び改廃について検討、決定するほか、リスク管理に関する推進方針及び具体策等の討議決定が行われています。

■ 会社の機関・内部統制の関係図



コンプライアンス及びリスク管理体制／ 個人情報保護

適正な業務執行のための体制を整備・運用していくことが経営の重要な責務であるとの認識のもと、内部統制システムを構築しています。

コンプライアンス及びリスク管理体制

コンプライアンス体制

- ①当社は、企業の存立と継続のためにはコンプライアンスの徹底が必要不可欠であるとの認識のもと、2003年4月に「長谷工グループ行動規範」を制定し、全ての取締役、執行役員及び使用人が法令・定款の順守はもとより、社会規範を尊重し、社会人としての良識と責任をもって行動するべく社会から信頼される経営体制の確立に努めています。また、コンプライアンスの向上にむけコンプライアンス室を設置し、コンプライアンスに関する社内規程に従い、コンプライアンスの推進・教育を行うとともに、コンプライアンスに関する相談や法令違反行為等の通報のために内部通報制度を設け、社外を含めた窓口を設置しています。
- ②当社は、2005年4月より社長直轄の監査部を設置し、内部監査に関する社内規程に従い各部門における諸活動が法令、定款、会社の規程・方針等に適合し、妥当であるものかどうかを検討・評価し、その結果に基づき改善を行っています。
- ③当社は、市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは一切関係を持たず、これらの反社会的勢力及び団体に対しては、毅然とした態度で組織的に対応します。

リスク管理体制

- ①当社は、様々なリスクに対して、リスク関連情報の収集に努め、リスクの大小や発生可能性に応じて、リスク発生の未然防止策や事前に適切な対応策を準備することにより、損失の発生を最小限にするべく、2006年4月に設置したリスク統括部を中心に組織的な対応に取り組んでいます。
- ②具体的には、経営企画部門及び経営管理部門の各セクションが連携をとりながら職務の役割に応じて業務執行状況をチェックする体制とし、さらに、監査部によるチェック体制を整えています。業務執行の意思決定の記録となる稟議制度においては、2002年4月より決定手続きを電子化する電子稟議システムを導入し、監査役及び経営企画部門並びに経営管理部門がその内容を常時閲覧、チェックできる体制を構築しています。
- ③また、取締役会・2つの業務執行会議「営業執行会議」「技術執行会議」へ付議される案件のうち多数の部署が関わる案件、専門性の高い案件については、諮問会議・委員会を設けることで、事前の検証を十分に行うとともに、モニタリングが必要なものについては定期的な報告を義務付けています。
- ④加えて、当社及びグループ全体のリスク管理体制の強化を目的として、

2006年5月に社長を委員長とするリスク統括委員会を設置し、リスク管理に関する社内規程に基づき、リスクの横断的な収集、分析、評価、対応を行っていく体制を整備しています。

公益通報・コンプライアンス相談窓口の設置

当社では、コンプライアンス全般に関する社員からの通報・相談を受け付ける相談窓口を、リスク統括部・コンプライアンス室に設置し運用しています。また、公益通報者保護法に則り、通報者の保護体制の構築と法令違反行為等に関する通報・相談を受け付ける窓口を、リスク統括部・コンプライアンス室及び社外窓口として法律事務所に設置し運用しています。

コンプライアンスの推進

当社では、誠実かつ社会に貢献する企業活動を展開していくために、『長谷工グループ行動規範』を制定し、役職員の基本的な行動の規範を定めています。本規範の浸透を図るために、全社員に対して、『コンプライアンス規程集』『コンプライアンスブック』を配付しています。また、社内イントラによるコンプライアンス推進に関する定期的な情報発信を行っています。

個人情報保護

当社は個人情報保護の重要性を認識し、その取扱いに関する方針として個人情報保護方針（プライバシーポリシー）を定めています。その上で、社内における個人情報保護の責任体制を明確化するために個人情報保護管理者の設置

を行うとともに、個人情報保護に関する社内規程を整備し、これを順守するよう従業員への教育啓発を実施しています。

また、個人情報の紛失・漏洩を防止するため、管理の徹底及び各種セキュ

リティー対策を実施しています。これら一連の個人情報保護が確実に実施されていることを検証するために定期的に内部監査を行っており、必要に応じて是正を図っています。

12
社会活動



コミュニケーション



「長谷工 住まいのデザインコンペティション」の開催

建築を志す若手の人材育成を目的に、学生を対象とした第6回「長谷工住まいのデザインコンペティション」(テーマ名:「身近な場所のリノベーション」)を実施しました。

このコンペティションは2007年にスタートし、毎回異なったテーマを設定しています。今回は環境問題や少子高齢化という現代の課題を見据え、長谷工グループとしても今後の事業戦略の柱の一つとしている、建築ストックの「リノベーション」をテーマとし、全国の学生からさまざまな題材をもとに幅広い提案が数多く寄せられました。登録総数582件、応募総数217件の中から最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作10点が選ばれました。



「マンション打ち水大作戦」の実施

長谷工コミュニティ、長谷工スマイルコミュニティ、長谷工コミュニティ九州は、2012年7月23日～8月23日まで「マンション打ち水大作戦2012」を実施しました。

これは、長谷工グループが管理を受託しているマンションの居住者による、豊かなコミュニティ創造を支援することを目的としたイベントです。2008年の開始以来、5年間累計で20万世帯にご参加いただき、毎年恒例行事として定着したマンション管理組合も増えてきています。

2012年は941物件・51,365世帯が参加、お風呂の残り水など身のまわりの水を二次利用して、地球にやさしい打ち水を行いました。



FTSE 4 Good Index 銘柄に採用

長谷工グループは、社会的責任投資(SRI)の世界的な株価指数である「FTSE 4 Good Index」の構成銘柄として採用されました。「FTSE 4 Good Index」は、ロンドン証券取引所が出資するFTSEグループによる社会的責任投資指標で、当社は2013年も選定されています。



FTSE4Good

社会貢献活動



長谷工グループは、様々な社会貢献活動に取り組んでいます。

中学生企業訪問学習の受け入れ

芝本社ビルで、中学生に夢や進路、職業について考える機会を設け、未来設計の一助となるための企業訪問学習の受け入れ



を2012年6月8日に行いました。当日は茨城県神栖市の中学生6名が来社し、マンションの施工方法や構造、分譲マンションの所有の仕組みなどについて理解してもらいました。

「やめよう歩行喫煙キャンペーン」に参加

港区主催の歩行喫煙防止キャンペーンに、2012年5月17日および7月26日、2013年2月21日の3回参加しました。キャンペーンは芝本社ビルのある芝地区で、通行人への歩行喫煙防止の呼びかけと吸殻等のごみ拾いを行いました。



「日比谷通り打ち水大作戦2012」を開催

2012年7月26日に“みなと環境にやさしい事業者会議”と近隣の事業者と当社で「日比谷通り打ち水大作戦2012」を開催しました。当日は90名が参加し、真夏の厳しい暑さの中、打ち水でひとときの涼しさを味わいました。



「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加

2012年11月22日に大阪市主催の「大阪マラソン“クリーンUP”作戦」に参加し、グループ各社の各ビル周辺の清掃を、グループ社員総勢350名で行いました。



使用済み切手・カード類の寄付

使用済み切手7.5kg、使用済みカード類575枚を回収し、港区社会福祉協議会みなとボランティアセンターに寄付しました。この取り組みは、長谷工グループ労働組合も協力しています。

ペットボトルのキャップの回収運動

ペットボトルのキャップの回収は、資源リサイクルとともにキャップの売却益で世界の子供たちにワクチンを届け、命を救うボランティアです。2012年度は、ワクチン394人分にあたる788kgを回収しました。

献血に協力

東西の安全衛生委員会主催で、社会貢献活動の一環として東京地区は2012年7月17日と2013年2月5日、関西地区は2012年8月30、31日および12月18日と2013年3月11日に献血を実施し（検査機関：赤十字血液センター）、454名の社員が献血に協力しました。この取り組みは、長谷工グループ労働組合も協力しています。



外部表彰

2012年度の主な外部表彰等は以下の通りです。

日付	名称	主催	対象
2012.5.25	感謝状（東日本大震災 義援金・救援物資寄付活動に対して）	浦安市	長谷工コーポレーション
2012.6.12	第47回 大阪府建設業労働災害防止大会「A班優良賞・現場」	建設業労働災害防止協会 大阪府支部	「セントブレスタワー」新築工事作業所
2012.6.20	平成24年度 建設業労働災害防止協会支部表彰 「安全優良賞（団体表彰）」	建設業労働災害防止協会	「東京ミッドベイ勝どき」新築工事
2012.6.21	平成23年度 建設工務部優良請負工事表彰	東京都交通局建設工務部	「志村総合庁舎」新築工事
2012.7.2	平成24年度 「安全衛生に係る優良事業場、 団体又は功労者に対する厚生労働大臣表彰 奨励賞」	厚生労働省	「セントブレスタワー」新築工事作業所
2012.7.3	感謝状（優れた工事成績）	UR千葉地域支社	「豊四季団地（建替）第1期 後工区第5住宅建設工事」
2012.7.24	第4回 彩の国みどりのプラン賞	埼玉県	プレミアムプレイス草加松原
2012.10.1	2012年度 グッドデザイン賞	公益財団法人 日本デザイン振興会	プリリアレジデンス六甲アイランド
2012.10.18	平成24年度 建設業労働災害防止協会支部表彰 「安全優良賞（団体表彰）」	建設業労働災害防止協会	「アクアプレミアム」新築工事
2012.10.18	第49回 全国建設業労働災害防止大会「工事現場・優良賞」	建設業労働災害防止協会	「エルグレース豊中」新築工事 「ローレルコート宝塚武庫川町」新築工事
2012.11.22	2012年度 グッドデザイン賞	公益財団法人 日本デザイン振興会	ブラウドシティ稲毛海岸
2012.12.5	平成24年度 建設業労働災害防止協会兵庫県支部表彰 「作業所賞」	建設業労働災害防止協会 兵庫県支部	「アトレ塚口ローレルコート」新築工事作業所
2012.12.6	平成24年度 労働基準監督署 署長表彰「優良事業場賞」	江戸川労働基準監督署	「クレストフォルム船堀Ⅱ」新築工事作業所
2013.2.19	第6回 「おおさか優良緑化賞」 大阪府知事賞	大阪府	ライオンズ南千里佐竹台グランハート
2013.2.23	第1回 流山市景観賞	流山市	オーベルグランディオおおたかの森（建築物部門） クリアヴィスタおおたかの森（街並み部門）

環境・社会貢献関連記事

2012年度の環境・社会貢献関連記事内容は以下の通りです。

掲載	内容	掲載紙
2012.5	東京都初！官民協働によるコミュニティガーデンづくりが始動 ～「パークフロントテラス亀戸」に隣接する区立公園で	住宅新報 週刊住宅 他
2012.5	管理会社が考える実際に役立つ地震対策第一弾「地震に備える」を発行し、マンション居住者などに配布	読売新聞 日経産業新聞 他
2012.7	長谷工グループ「第17回R&R建築再生展2012」に出展 ～マンションリフォーム・管理を中心に「地震に備える技術と対策」を紹介	建設通信新聞 建設産業新聞 他
2012.7	集合住宅で初めて「CASBEEかながわ」の環境性能最高評価Sランクを取得 ～エコライフを実現する「ブリージアテラス淵野辺」販売スタート	建設工業新聞 建設産業新聞 他
2012.7	長谷工管理会社グループの「マンション打ち水大作戦2012」 ～管理組合のおよそ3割が参加 環境問題への意識向上や震災時に必要なコミュニティ形成に寄与	建設通信新聞 建設工業新聞 他
2012.7	建築を志す若手人材を育成 第6回「長谷工 住まいのデザインコンペティション」を実施 ～環境問題や少子高齢化を見据えた建築ストックの「リノベーション」がテーマ	日経産業新聞 住宅新報 他
2013.1	長谷工グループがGE製スマートメーターを採用 ～国内の新築・既存マンションのスマート化実績No1を目指し事業拡大	日本経済新聞 日経産業新聞 他
2013.1	西日本初の長谷工の次世代型マンション企画「Be-Next (ビーネクスト)」と 関西最大の全戸別供給型太陽光発電システムを採用した新築分譲マンション 「ブリージアブラン東園田」誕生	産経新聞 日経産業新聞 他
2013.1	長谷工グループの総合力で築30年低層マンションの長寿命化と省エネ対策を強化 「総合省CO ₂ 改修」をサービス関連事業の核として営業提案 ～国交省 平成24年度（第2回）住宅・建築物省「総合省CO ₂ 先導事業」に採択	フジサンケイビジネスアイ 日経産業新聞 他
2013.2	「おおさか優良緑化賞の大阪府知事賞」を受賞 ～「ライオンズ南千里佐竹台グランハート」建築物敷地内における優良な緑化の取り組みが表彰	産経新聞 大阪建設工業新聞 他
2013.3	「浦和常盤 ザ・レジデンス」建設段階から「地域とつくるコミュニティ」をコンセプトに活動を推進 ～地域の魅力を伝えあうフェイスブックを開設	建設通信新聞 建設工業新聞 他



いい暮らしを、創る。

住まいのオンリーワングループ



長谷工 コーポレーション

皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください

長谷工コーポレーション「環境・社会報告書2013」をお読みいただき、誠にありがとうございました。
今後の活動やレポートづくりに反映させていただきたいと思っておりますので、
皆さまの忌憚ないご意見・ご感想をお願いいたします。
お手数ですが、下記アンケートにご回答のうえ、FAXにてご送付いただければ幸いです。

株式会社 長谷工コーポレーション 広報IR部 行
〒105-8507 東京都港区芝2-32-1

FAX 03(3456) 6399

Q1 本報告書をお読みにになり、どうお感じになりましたか？

- 記事内容：充実している 普通 物足りない
情報量：多い 普通 少ない
読みやすさ：読みやすい 普通 読みにくい
デザイン：良い 普通 良くない

Q2 特に興味を持たれた内容をお選びください。（複数回答可）

- | | |
|--|---|
| <input type="checkbox"/> トップメッセージ | <input type="checkbox"/> 環境配慮の取り組み |
| <input type="checkbox"/> 特集「長谷工がかける新たな時代への架け橋」 | <input type="checkbox"/> 研究・技術開発の取り組み |
| <input type="checkbox"/> 環境方針 | <input type="checkbox"/> マテリアルフロー |
| <input type="checkbox"/> 環境マネジメントシステム | <input type="checkbox"/> 環境会計 |
| <input type="checkbox"/> 施工における環境活動の流れ | <input type="checkbox"/> コーポレート・ガバナンス |
| <input type="checkbox"/> 地球温暖化防止の取り組み | <input type="checkbox"/> コンプライアンス及びリスク管理体制／個人情報保護 |
| <input type="checkbox"/> 資源循環及び廃棄物削減の取り組み | <input type="checkbox"/> 社会活動報告 |

Q3 本報告書をお読みになって、当社の環境・社会活動を評価できますか？

- 高く評価する 評価する どちらでもない 評価しない まったく評価しない

ご意見やご要望を自由にお書きください。

Q4 本報告書へのご意見・ご感想を自由にお書きください。

ご意見やご要望を自由にお書きください。

Q5 本レポートをどのようなお立場でお読みにになりましたか？

- お客様 お取引先 行政機関 企業・団体 金融・投資機関 株主・投資家
 報道関係 NGO・NPO 研究・教育機関 学生 当社・グループ会社の社員・家族
 その他（ ）

差し支えなければ、以下のご記入をお願いします。

ご職業（勤務先・団体名・学校名など）									
年齢	<input type="checkbox"/> 20代未満	<input type="checkbox"/> 20代	<input type="checkbox"/> 30代	<input type="checkbox"/> 40代	<input type="checkbox"/> 50代	<input type="checkbox"/> 60代以上	性別	<input type="checkbox"/> 男性	<input type="checkbox"/> 女性

ご協力ありがとうございました